

藤樹人間学塾… 藤樹思想を学ぶ者の実践

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に藤樹思想を学ぶとともに、今日的意義を自分の頭で考え、仲間と議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月原則第一土曜日の午後、開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

五月十二日(日)午後、第92回人間学塾を安曇川公民館で開催しました。

冒頭、カンボジアでアンコールワット遺跡の発掘・再建に献身的な努力をされてきた石澤良昭氏のお話をしました。・・・遺跡の修復において、最も留意しなければならぬことはカンボジア人の価値観を重視することだと。

そして『中庸解』の十三章の続きを学びました。君子の道は四つあるが孔子はその一つも十分できていないという。それは相手の求めるところを十二分に尽くすことは難しいということ。普段の言動の中で特に言葉は一番現れやすいので、つつしむ方がよい。心に余裕を持つようにして相手を批判するのではなく自分を反省する…。

フリートリーキングでは、「性善説・利他がすべて新鮮。性悪説・自利とのバランスが大事だと思う」などの意見が出ました。

六月一日(土)午後、第93回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

『中庸解』第十四章の「君子はその位に素して行い、そのほかを願わず・・・」を学習しました。大意は「立派な人物は、その置かれている境遇に執着しないで行うべき道を失わない。自分の境遇を超えてあれこれ心を動かさない・・・」。藤樹先生は素を空と解釈されていますが、私はその空は「致知」一月号で横田南嶺師が述べられている無の境地と同じで、そこに至れば「随处で主となる」ことができる話でした・・・。

参加者から「空＝無はたいへん深い意味があるのではないか。それが分かるように努力したい」、「自分の人生、場面、場面を振り返りながら十四章を考えられた」等の感想をいただきました。

塾終了後、場所を替えて懇親会を行い、「藤樹祭りを多くの関係者と一緒に行いたい」などの話で盛り上がりました。

七月六日(土)午後、第94回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

『中庸解』第十五章の「君子の道は例えば遠きに行くのに必ず近きよりするが如く、高きに登るに必ず低きよりするが如し。妻子好合し、兄弟和楽して楽しむ・・・」を学習しました。大意は「立派な人物は、大志を目指すことも足下のこと一家の中を治めること



からからしつかり行っていく・・・」。実行がなかなか難しい課題です。これについて、「千里の道も一歩から」、「トヨタ式5S」、「横田南嶺師の看脚下」等を用いて解説しました・・・。

出席者から「TVで、地元で不評だった産廃処理業者が森づくりを始めて、森が完成したら子供たちが入社したいというまでになり、地域に受け入れられるようになった話を視た。これはこの塾で学んでいる『利他』の行動が実を結んだのだと思った」、「大きな目標に向かう時、時々挫折しそうになるが、今日ヒントが得られた」等の感想をいただきました。

八月四日(日)午後、第95回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

『中庸解』第十六章の「子曰く、鬼神の徳たる、それ盛んなるかな・・・」を学習しました。大意は「天神の徳というものは実に盛大なものである。万物は天神のお陰で生まれその形体を得たものである。人はその最たるものであるが、善に従うと福が来て、悪に従うと禍が来る・・・」。

マララというパキスタンの少女が女性に教育を受けさせるために熱心に活動をしていてタリバンに頭を銃撃されたが軌跡的に助かり、その後も活動をして最年少でノーベル賞を受賞した話をしました。命が助かったのは天神のはたらきではないかと。

フリートリーキングでは、「京都アニメーション放火事件」で人々に喜びを与える活動をしていた三十五人もの人が犠牲になったことについてどう考えるべきか、等について議論しました。本塾に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

【藤樹人間学塾 今後の予定】

十月六日(日) 十一月二日(土)

◎十二月七日(土) 一月五日(日)

三月七日(土)

◆十二月は、百回記念として「中江藤樹・心のセミナー」と同時開催

■時間 十五時～十七時(原則)

■場所 安曇川公民館

◎印は塾終了後、別場所で懇親会あり